

修士設計要旨

「透ける建築」における天井表現の調査と設計 Design of ceiling in "architecture with semi outdoor space"

社会システム工学コース

1205103 松林幸佑

「透ける建築」とは、現代建築において半屋外空間または大開口(ガラスあり)を多く持ち、建物の中を視線が抜け反対側の屋外を見ることができる平屋の建築を指す。本修士設計では、天井面の表現(天井表現)に着目し、事例を用いながら類型化による整理、設計実践に取り組み、そんな「透ける建築」の魅力を導く。

□ 類型化

類型化は、1998年号から2016年号までの建築雑誌「新建築」に掲載されている「透ける建築」を対象に行った。選定事例は43事例で、天井面の凹凸、柱間隔(柱スパン)による分類から、「透ける建築—スライム型」、「透ける建築—テーブル型」、「透ける建築—仮設型、透ける建築—ワッフル型」、「透ける建築—伝統型」の4つの類型を導き出した。導いた類型を用い、「透ける建築」について情報の整理を行う。

□ 設計実践

設計実践(ケーススタディ3)では、伊方町観光交流拠点施設プロポーザルコンペに参加し、類型化の際に整理した情報を元に「透ける建築—伝統型」の実践を行った。実践では、「透ける建築—伝統型」陸屋根タイプと切妻屋根タイプの特徴も組み合わせ、建物利用者や地域住民に開かれた観光交流拠点施設の提案を行い、天井表現の密度によって天井下空間のあり方が決まることがわかった。

以上の2つの過程より、「透ける建築」の魅力について調査を行った。